

A Potential Pitfall in Estimating a Nonlinear Function of Bank Lending: A Critical Evaluation of “Unnatural Selection”

札幌学院大学 井上 仁

甲南大学 中島 清貴

日本銀行 高橋 耕史

本論文では Peek and Rosengren (2005)が主張した“Unnatural Selection”のメカニズムについて再検証を行った。彼らは 90 年代後半の日本において自己資本比率が低下した銀行が質の低い企業に貸出を増加させていたことを見出し、その原因が銀行の *balance sheet cosmetics* にあるとした。すなわち銀行が財務状況の悪化を隠すために、企業が立ち直ることに期待して質の低い企業に貸出を継続もしくは増加させる行動をとっていたことを主張している。本論文では彼らの非線形推定モデルに基づき、交差項の限界効果を推定することによって再検証を行った。その結果、銀行は悪い企業へ貸出をより増加させていたが、その行動は自己資本比率の高低に関わらず観察された。よって、このような配分の失敗は *balance sheet cosmetics* だけで説明できるものではなく、その他の原因の特定が必要である。